

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに第127期第1四半期（2020年4月1日から2020年6月30日まで）の営業概況をご報告申し上げます。

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各国で経済活動が制限されたため、大きく落ち込みました。一部で経済活動再開の動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染拡大の長期化や米中対立の深刻化等が懸念され、世界経済の先行きは不透明な状況となっております。わが国経済も、世界経済と同様に極めて厳しい状況が続きました。

このような経営環境下、当社グループは、全社経営改革委員会を設置し、大幅な需要の減少に即応した生産体制の見直しや本社費の圧縮等の緊急収益改善策によるコスト削減に継続して取り組んでおります。加えて、設備投資の抑制やコミットメントラインの設定等により、事業環境の急変に備えた資金の確保を行いました。また、中期経営計画「Growth & Change 2021」の重点テーマである「収益力の向上」及び「グループシナジーの発現」を優先し、自動車・産業機械部品事業のグループ生産体制最適化等による構造改革を加速しております。

第2四半期末の配当は、現下の厳しい経営環境を踏まえ、誠に遺憾ながら実施を見送らせていただくことといたしました。なにとぞ、諸事情ご理解のうえ、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



2020年9月

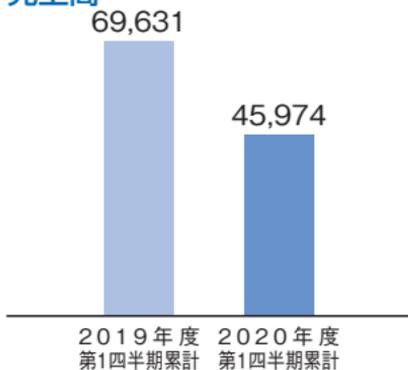
代表取締役社長

高松信彦

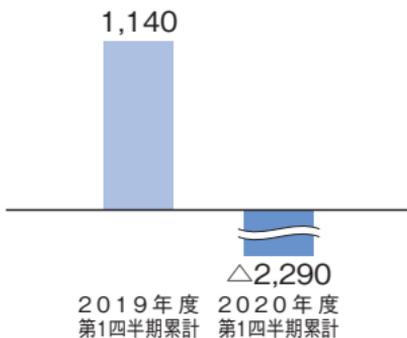
連結業績の推移

(単位：百万円)

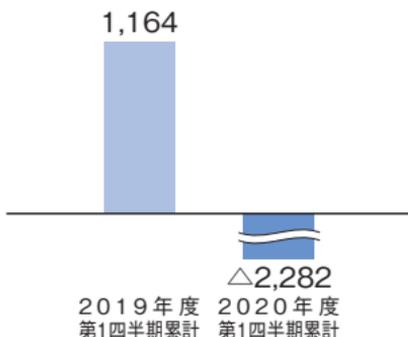
売上高



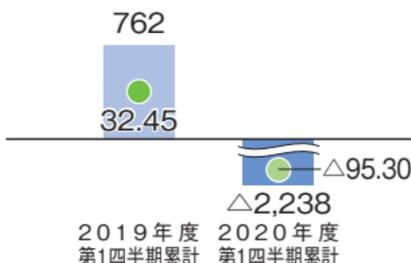
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益 (■) (円)
1株当たり四半期純利益 (●) (円)



四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

科目	2019年度末	2020年度 第1四半期末	科目	2019年度末	2020年度 第1四半期末
資産の部			負債の部		
流動資産	115,074	107,469	流動負債	74,053	75,839
固定資産	139,584	139,762	固定負債	76,805	70,248
有形固定資産	100,445	99,547	負債合計	150,858	146,088
無形固定資産	4,637	4,416	純資産の部		
投資その他の資産	34,500	35,798	株主資本	99,323	97,083
資産合計	254,659	247,232	その他の包括利益累計額	3,409	3,088
			非支配株主持分	1,068	971
			純資産合計	103,800	101,143
			負債純資産合計	254,659	247,232

セグメント別の営業概況

鉄鋼事業

売上高 15,212百万円 

営業利益 671百万円 

新型コロナウイルス感染拡大の影響により経済活動が停滞したため、電炉業界においても、建設向け及び製造業向けともに国内需要は大幅に減少しました。一方で、主原料である鉄スクラップ価格は前年同期に比べ下落しました。

このような環境下、当社グループは、緊急収益改善策によるコスト削減を実行するとともに、国内の需要減少を輸出で補ったものの、鋼材販売価格が低下し、鉄スクラップ購買価格との値差が縮小しました。

自動車・産業機械部品事業

売上高 27,927百万円 

営業損失 1,826百万円 

自動車業界においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、世界各国で生産が大きく落ち込みました。中国では回復の動きがみられるものの、国内や米国では大幅に生産が減少しました。建設機械業界においても同様に、油圧ショベルの生産は中国を除いて大幅に減少し、鉱山機械の生産は、世界的に低水準で推移しました。

このような環境下、当社グループは、構造改革の取り組みを進めるとともに、緊急収益改善策によるコスト削減を実行したものの、自動車用ホイール・建設機械用足回り部品等をはじめとする全ての製品について販売数量が大幅に減少いたしました。

発電事業

売上高 1,353百万円 

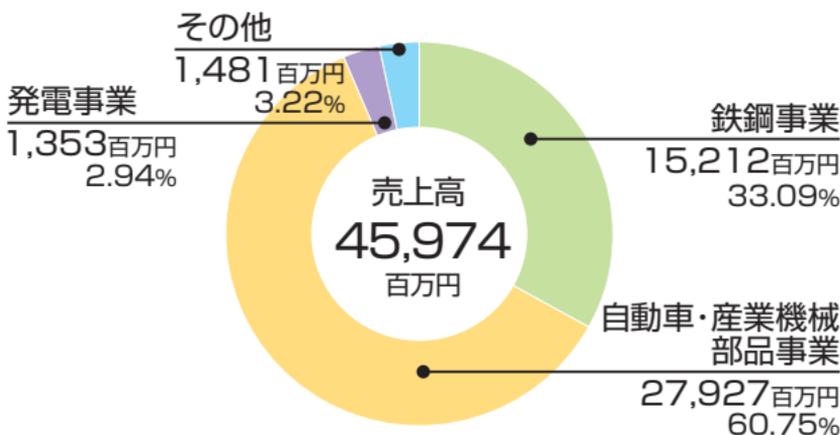
営業損失 184百万円 

地球温暖化問題を背景とした石炭火力発電抑制の動きや価格競争の激化等の影響により、厳しい事業環境が続きました。このような環境下、事業計画に沿って安定した電力供給に努めたものの、販売価格の低下に加えて定期修理による稼働停止の影響を受けました。

その他

売上高 1,481百万円 

営業利益 187百万円 



連結業績の予想

	2019年度通期 実 績	2020年度 第2四半期累計 予 想	2020年度通期 予 想
売 上 高	263,305百万円	105,000百万円	225,000百万円
営 業 利 益	2,851百万円	△5,000百万円	△4,000百万円
経 常 利 益	3,597百万円	△5,000百万円	△2,500百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	△4,497百万円	△5,000百万円	△4,000百万円
1株当たり当期純利益	△191.42円	△212.82円	△170.26円

配当の状況

	2019年度 実 績	2020年度 予 想
第2四半期末	40.00円	0.00円
期 末	0.00円	未定
合 計	40.00円	未定

2020年度通期連結業績予想及び配当予想に関しましては、2020年8月4日に公表しております。なお、期末配当は、引き続き未定とさせていただきます、決定次第速やかに公表いたします。



従業員数：32名（2020年3月末現在）

生製品目：金属スクラップ及び産業廃棄物の回収・加工
（破碎・選別）・販売

明海リサイクルセンター株式会社は、1991年にトピー工業グループの一員として産声をあげ、これまで、日本最大級のシュレッダープラントを駆使し、金属スクラップや廃自動車・産業廃棄物を、鉄やアルミなどの原料として再生してきました。2004年、トピー工業と共同で、廃自動車を破碎処理する際に発生するシュレッダーダストを、電気炉で使用するコークスの代替として再資源化する技術を開発、シュレッダーダスト再資源化設備を建設し、廃棄物ゼロを可能にした理想的なリサイクルシステムを実現しました。

2013年には、シュレッダーラインの集塵能力増強と非鉄選別ラインの新設を行い、廃自動車などを破碎処理した鉄や非鉄スクラップの品位が大幅に向上しました。今後も、金属リサイクルの高度化を進め、循環型社会の実現に寄与してまいります。



シュレッダー鉄スクラップ